

精神科長期入院患者の退院支援に関する継続教育

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部 人間看護学科 准教授 川田 陽子

研究分野 : 精神看護 専門看護師実践

研究者は精神看護専門看護師として、精神科医療の現場で困難患者への看護実践、看護師への教育・相談、倫理調整、多職種連携チームの運営を行ってきました。そのような活動の中で、精神保健医療福祉の最も大きな課題と感じていたのが精神科長期入院患者の存在です。日本の精神科入院患者数は世界一であり、2019年10月には国連・障害者権利委員会から重大な人権侵害であると注意勧告を受けています。これを解消しようと、国の施策によって施設収容型医療から地域医療中心へと急な方向転換が図られ、すべての精神科病院で長期入院患者への退院支援が求められることになりました。精神科看護師たちにも看護の方向転換が求められていますが、そのための支援や教育に関する研究は不足しています。精神科医療では今後も長期入院患者の存続が予測されているため、精神科看護師に対する長期入院患者の退院支援に関する教育支援は急務であると考え、研究を続けています。

■精神科病院における退院支援看護実践について

精神科長期入院患者への退院支援における看護実践の内容は、患者の準備状態に応じていくつかの段階に分かれています。段階に応じた看護実践によって、長期入院患者の地域移行が進んでいきますが、段階が進むにつれ、患者の家族からの協力や他職種連携が必要になっていきます。

■精神科看護スペシャリストによる退院支援の実際について

一般の看護師は、退院調整には欠かせない、患者の家族とのかかわりや他職種連携を苦手と感じていることがわかっています。このような中、精神科認定看護師や精神看護専門看護師がリーダーシップをとって、困難患者の退院支援にあたっていますが、その活動はあまり評価されていません。そのような活動を可視化し、一般科と同じような退院調整看護師制度の構築を目指した研究をしています。

■精神科長期入院患者の退院支援に関する看護師向け教育プログラムの構築について

一般科においては、退院支援に特化した教育プログラムの効果が認められ、退院調整看護師の育成も進んでいます。一般科における退院支援とは異なる看護実践が必要となる精神科において、精神科看護師に対する教育プログラムの構築を目指して研究をしています。このような研究を通じて、精神科長期入院患者の地域移行において看護師たちが力を発揮できるように支援していきたいと考えています。